



三重中央だより

当院の理念(Principle) ● いのちの尊さを自覚し、病む人の身になって、安心で質の高い医療を行います。

テーマ

地域に生きる、三重中央 地域医療支援病院

巻頭言

温故知新！ 地域医療と三重中央医療センター

三重中央医療センターと地域とのつながりは古く、明治41年11月21日、津歩兵第51連隊（久居町）に津衛戍病院として開院したことにさかのぼる。今は昔、30年前に開業した頃、東橋内地区でお世話になったオジサマ達、ガキトモの父親、父から受け継いだ患者等の在宅患者の中には第33連隊から満州・中支・フィリピン等に転戦した患者も多く、傷病を負い戦地の兵站病院、陸軍病院より病院船で内地送還され津陸軍病院に収容された者もいた。つらい兵隊時代のことは認知症を患っても覚えておられるが、今ではほとんど亡くなられているうえに、兵隊経験者年齢も90歳を超え訪問時に聴ける戦時中の貴重な経験、語り部内容も風化していく現在、津陸軍病院が属していた津の連隊の事をこれらの語りをもとに少し文献的にもひも解いて、温故知新としたい。



久藤内科 院長

久藤 眞

久藤先生は 第1回 日本医師会 赤ひげ大賞 (2013年) を受賞されています

注：赤ひげ大賞は、地域医療の現場で長年にわたり、地域住民に寄り添い、地道に尽力されている「かかりつけ医」を顕彰することを目的に創設されたものです。第1回は全国で5人受賞されました。

大正14年宇垣軍縮により第51連隊は廃止（最後の連隊長は小磯國昭大佐、後の首相）、第33連隊が守山より久居に転営（第16代連隊長に板垣征四郎大佐、小磯も板垣も後にA級戦犯）、昭和11年津陸軍病院に改称（比較的軽症の傷病兵を収容する三等病院甲、伊藤進軍医中佐が最後の院長）、（往年の名投手沢村栄治も入営・昭和19年東シナ海で戦死、小津安二郎も）。

戦前は満20歳になると、徴兵検査があり、翌年ほとんどが津の連隊に入営するわけだから、津陸軍病院は今でいう学校の厳格な大きな保健室のような存在であったと思われる。ベッド数は300で平時は軍以外の診療もなされており、最も救急自体がない時代であったので、おらが病院というわけにはいかず、敷居は高かったらしい。さらに当時の交通手段は、昭和13年の参宮急行電鉄中川～江戸橋間開通までは、今の国道165号線の道路と岩田橋近くからの中勢鉄道（軽便鉄道）の二つであったので、津からの一般受診は難しかったようだ。軍の病院であるから命令系統は厳格で、傷痍軍人のリハビリ、社会復帰、職業斡旋まであり、これは戦時には傷病兵が次々に搬送されてくるための回転率上昇対策とも考えられ、全体としてはコメディカルもしっかりしている思いやりが息づく病院であったと推察される。以前、津にないのに津を冠しているのを不思議に思ったことがあるが歩兵第51連隊、第33連隊は一志郡久居町にあったにも係わらず、一般には「津の連隊」と呼ばれて親しみ慕われていたことの歴史でよくわかる。昭和40年代は人口16万そこそこの県庁所在地として人口では全国最低の田舎町であり、国公立の一般診療病院としては大学病院しかなく、当然のこととしてお粗末な救急体制であった。今や津も人口28万人の全国県庁所在地では38位まで躍進(?)

し、津陸軍病院も三重中央医療センターとなり、まずそのダークブラウンの統一された重厚な建物群に安心感を覚えると同時にその医療にも重い責任を負っておられる先生方の意気込みを感じる。

この文章を依頼されてから患者に聴いてみても、一家族当たりひとりには必ず三重中央医療センターにお世話になり感謝の念を抱かれています。私のガキトモにも、くも膜下出血、大動脈解離、食道がん、膵がんでそれぞれ一命をとりとめ、ただ紹介させていただきただけなのに多大の感謝をされ有り難い限りである。夜間の往診があると患者の病態よりもどこに入院させようかという思いがよぎる。まずホットラインが心に浮かぶが、全国的にもいち早くこれを立ち上げていただいたのは三重中央脳卒中ホットラインである。他に、周産期および新生児医療、循環器直通コールなど先生方の並々なぬご努力と犠牲を払われた精神には頭が下がる。

国の医療計画5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）と5事業（救急医療、災害医療、僻地医療、周産期医療、救急医療を含む小児医療）の医療体制構築プロジェクトにおいても急性期医療を担う紹介型の総合病院として地域医療に貢献されている。さらに総合周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、津市二次救急輪番病院、災害医療支援病院として病院内、他医療機関、かかりつけ医との連携を密にされ、患者主体理念をもって、その使命感に燃え、森本保院長のもと諸先生をはじめ職員の方々のご努力の上に立って前進されており心より敬意を払うものである。

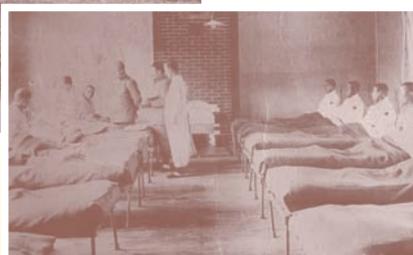
(参考) _____

- 1) 歩兵第33連隊史 (栄光50年の歩み)、島田克巳 歩兵第33連隊史刊行会、1972。
- 2) 大東亜戦争陸軍衛生史 第2巻、陸上自衛隊衛生学校編、1971。



▲ 津衛戍病院

病室風景 ▶



写真提供：防衛省陸上自衛隊久居駐屯地

三重中央消化器疾患懇話会について

内視鏡センター長 消化器科医長 渡邊 典子

さわやかな秋風が吹く季節となりました。
今回は、三重中央消化器疾患懇話会についてお話しいたします。

皆さんは、「地域医療連携」と言う言葉をきいたことがあるでしょうか？

地域医療連携とは、「地域全体で地域医療を支えよう」という目的から始められた行動です。

地域医療機関には、病院、開業医による各専門診療科医院、診療所、介護療養施設などがあります。これらの医療機関がばらばらに医療サービスを提供するのではなく、地域の医療機関が連携し、患者様に最適な医療サービスを提供するものです。

当院でも地域医療連携を推進しており、様々な取り組みをいたしております。消化器疾患に関しては、この地域のご開業の先生方と当院の消化器内科・外科の医師を中心として、消化器疾患に関連した話題について知識を深め合う勉強会（三重中央消化器疾患懇話会）を開催しています。

- ・具体的な症例提示による検討会
- ・消化器疾患の診断と治療の勉強会、講演会など、

この懇話会を通して、消化器疾患の治療をより充実させると同時に、開業医師及び病院医師が相互に連絡をはかり、また、広く知識の交流をはかっています。



2013年より年2回、懇話会を開催しています。

第1回は、消化管疾患について、第2回は胆道疾患について、第3回は、肝臓疾患に関して研究会を開催しました。

第4回の研究会は、膵疾患に関して、2014年11月7日に開催しました。

今後も継続して、高度な医療技術と最適なサービスが提供できるように取り組み、また、この地域の医療レベルの向上に取り組んでいきたいと考えます。

「地域全体で地域医療を支えよう」

地域の
先生方との
勉強会

COPDと「三重中央地区COPDセミナー」について

呼吸器科医長 大本 恭裕



みなさんは、COPD（シーオーピーデー）という疾患をご存じでしょうか。以前は肺気腫と呼称していた疾患群とほぼ同じで、現在は、肺気腫様病態はCOPDと呼ばれております。COPDは喫煙が原因で起こる疾患であり、長期の喫煙により肺実質である肺胞が破壊され

る、気管支が狭窄する状態が起こる、簡単な言葉で言うと、喫煙によって肺が溶ける、気管支が細くなって呼吸が苦しくなる病気であると理解して頂いていと思います。喫煙を長期に継続していると、上記のCOPDという疾患ばかりでなく、気管支炎、間質性肺炎などの難治な疾患を引き起こしますし、さらには肺癌などを発症することもあります。タバコを吸っていて何ひとついいことはないのです、タバコを吸っている人はすぐに止めていくよう努力することが必要です。

この津－久居地区には、この地区の開業医の先生

方が発起人となりCOPDという疾患の理解を深めようとして立ち上げた「三重中央地区COPDセミナー」という研究会、講演会があり、毎年7月に講師の先生方を御招きして当院でこのセミナーを開催しております。今年（平成26年）で早10回を数え、熱心な先生方は、毎回参加して疾患の理解や治療法などについて勉強しておられます。参加者は、地元の開業医の先生方の他、当院の呼吸器科医師、薬剤師、看護師、その他のコメディカルの方々などで、毎回、COPDに関する最新の話が聞くことができ、治療に大変役立っています。参加される先生方、医療スタッフは年々増えています。患者の皆様方は、自分の病状がどうか、喫煙をしているために本当にCOPDかどうかの診療を希望される場合には、上記の津－久居地区の開業医の先生方を受診して頂き、そこから当院呼吸器科をご紹介して頂くのが一番いい方法だと思います。当科にご紹介して頂ければ、早めに胸部CTや呼吸機能検査などを行って肺の状態を評価、本当にCOPDなどの疾患であれば、吸入薬などを投与して治療を開始し、安定すればまた、自宅近くの開業医の先生方のところへ戻って治療を継続して頂くようにしています。

三重中央脳卒中ホットライン

脳神経外科医長 石田 藤麿

脳卒中には、脳動脈が閉塞する脳梗塞・小さな脳動脈が破綻した脳出血・脳動脈瘤が破裂するクモ膜下出血などが含まれます。それぞれの病態に応じた的確で迅速な治療が必要ですが、これらの治療は年々進歩しています。脳梗塞発症4.5時間以内であれば、血栓溶解剤の投与により閉塞した脳動脈の再開通が期待できます。また不整脈による脳梗塞の予防には、これまでよりも安全な予防薬が登場しました。内科的治療では、それぞれの脳卒中に応じた適切な血圧管理目標や再発リスクの要因が明らかにされています。一方、外科的治療においては、術中に神経機能をモニタリングしたり、血流を顕微鏡下に観察することができるようになりました。

三重中央医療センター脳卒中チームは、神経内科・脳神経外科医師、脳卒中リハビリ看護認定看護師、ICU・病棟看護師、専属薬剤師、医療事務補助脳卒中チーム、理学療法・作業療法・言語療法スタッフから構成され、“すべての脳卒中患者さんに、適切な治療を迅速に計画し、日本の標準的治療成績以上

地域の先生方との勉強会

当院では、津久居一志地域の皆様のお役に立てるように、色々な取り組みを病院全体で行っていますが、今回は循環器科での「DB90」についてご紹介します。

皆さんは、狭心症や心筋梗塞という病気について時々耳にしたことがあると思います。

このような病気は、心臓を栄養する血管である冠動脈が、主に動脈硬化によって高度に細くなったり詰まってしまうためにおこる病気です。特に心筋梗塞は心臓の筋肉が死んでしまう状態で、時に不幸な結果を避けられないことがあります。これは不整脈などによる突然死のような、急激な変化をとともなう危険性が高いためです。また死を免れても心臓の働きが低下してしまい、日常生活に大きな支障を来すことがある恐ろしい病気です。

最近では急性心筋梗塞、不安定狭心症、心臓突然死など、急性の冠動脈血栓閉塞に関連した一連の疾患群を、急性冠動脈症候群と称するようになりました。

不幸な結果を起こしうる急性冠症候群の治療は、まず第一に予防です。しかし、残念ながら発症してしまった場合は、なるべく早めに治療することが重要です。日本でもカテーテル治療により詰まった血管に再度血液を流す再疎通療法が主流で、来院してから90分以内に治療することが推奨されています。これをドアからバルーン（Door to Balloon）時間と

の医療を提供する”を基本コンセプトにしています。進歩におくれることのないように、神経解剖から最先端の論文に関して毎日病棟で早朝勉強会を行い、数値流体力学や画像解析ソフト開発による臨床研究に取り組み、国内・国際学会での発表や勉強を続けています（脳神経外科ホームページ www.nsmcmc.com 参照）。



地域医療連携も強化しています。三重中央脳卒中ホットラインでは、地域の先生方が24時間いつでも携帯電話で脳神経外科医に連絡をとる体制を整えています。さらに治療経過や慢性期治療ポイントなどについて、ご紹介いただいた先生方と年3回の検討会を行い、特別講演では最先端の脳卒中医療に関するレベルアップをはかっています。2015年からは、急性期脳卒中医療に関する患者さんひとりひとりの詳細な情報をUSBメモリを媒体とし当センターから提供する予定です。これらのデータを共有することで回復期・慢性期の診療との連携強化を行います。

脳卒中の増加は高齢化日本が克服する重要な課題です。知識をリフレッシュさせ、外科的技術の向上に取り組み、チーム一丸となって、津市の脳卒中急性期医療に取り組んでいきます。

DB90

心・血管診療部長 川崎 敦

呼んでいます。

当院循環器科では以前より久居一志地区において病診連携を図ってきました。2年前より、出きる限り早く急性冠症候群の患者さんを治療するために、地域の先生方とのこれまで以上に円滑な協力を目的としてDB90（Door to Balloon time 90）という体制をとっています。



これは主に急性冠症候群の患者さんを対象として、毎日24時間、地域の先生方より直接当科の医師への連絡のため電話を頂くシステムです。これにより常に直接情報を得られるため、迅速な対応を行い病院到着後90分以内の治療の実現を目指すものです。到着後90分以内の治療のためのDoor to Balloon時間90分を略してDB90としました。

このシステムによりさらに地域の皆さんに貢献できるよう努めております。

『出前！市民公開講座』 開催1年を迎えるにあたって

地域医療連携室 連携係長 山本 弥生



当院は地域医療支援病院として積極的に情報発信を行い、当院の存在を地域の皆様にご理解いただきたく、昨年8月、市民公開講座のあり方を見直しました。

今までの市民公開講座は、時間・場所・内容が決まっている一方通行の発信であったかと思えます。しかし、本当に聞き

たい話を聞いてもらおう！聞きたいと思っている方の場所に自分たちが出向いて行こう！講師は病院スタッフ全員！であるべきではないかと考えました。その結果、各部署から117項目の講座演題が集まりました。

そして、レストランのように自分たちで好きなメニューを選んでいただこうと、『出前!! 市民公開講座 メニュー表』が誕生し、昨年の11月「三重中央だより」に掲載し広報を行いました。その結果、早々に病院や企業の方の目に止まりご依頼をいただくようになりました。その後、自治会の方にも

ご賛同いただきご依頼をいただいています。

昨年の11月以降、試行錯誤しながら第22回（27講座）を開催させていただいています。「メニュー表を見て連絡しました」とご依頼いただくことが多く、「職場で講演が聞けて良かった」「ゆっくりと先生の話が聞けて良かった」とのご意見や、「医療用語は難しい」「日常生活に即した具体例を聞きたい」など、率直なご感想をいただいています。

本年9月には講座メニューが136項目に増えました。これからも一方通行の情報発信ではなく皆様のご意見を参考にお話ができるよう努力してまいります。

地域の集会所から会議室まで・・・どこでも出張いたします！

メニューを広げていただき、ご注文ください。様々な栄養満点のレシピをご用意してお待ちしております！～聴きたい最新情報を直接、地域でオーダーメイド～ が合言葉です！

地域の
皆様方との
勉強会

地域医療連携室の役割

地域医療連携室長補佐 沖田 光郎



当院は、平成22年8月に地域医療支援病院の指定を受け、その役割を果たすために地域医療連携室は、地域医療機関の先生方や保健・福祉関連の担当者と連携を図り、良質で安全かつ安心できる医療を適切に提供するための窓口として業務を行っています。

地域医療連携室は、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務職員など各部門のスタッフで構成され、その業務もかかりつけ医や他の医療機関からの紹介状

管理、検査予約、患者さんの転院調整、患者相談、他の連携病院等との関係構築や広報活動にいたるまで多岐にわたっています。

主に前方連携業務では、地域医療機関からの紹介患者さまをスムーズに受け入れるための調整や、地域医療機関の先生方と当院をつなぐ連携の窓口としての役割を担っています。

後方連携業務としては、医療ソーシャルワーカーが、外来通院中または入院中の患者さまやご家族からの医療的、社会的、経済的問題などの相談に応じ、問題解決への助言、解決、調整を行い、安心して療養生活が過ごせるよう支援を行っています。また、必要に応じては退院調整を行い、地域医療機関や保健、福祉と連携を図り、在宅療養や転院に向け調整し、切れ目のない医療サービスの提供を行っています。

広報活動としては、定期的に広報誌「三重中央だより」を発行し、地域住民を対象とした「出前！市民公開講座」を開催するなど、地域への情報発信、啓蒙活動を行っています。

地域医療連携室は、今後も、患者さまに効率的で満足のいく医療サービスを受けていただけるよう努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

医療相談室

医療社会事業専門員 津川 忠久

地域の
皆様方との
窓口

医療相談室では医療・福祉制度を中心に、いろんなご不安や、困りごとを、ご相談ください。

今年になって難病への支援が拡大し、介護施設等も増えています。医療福祉は充実していくように見えます。しかし、医療福祉現場を支える市町村、施設やスタッフへの期待は大きくなる一方、診療報酬のように改定毎に負担が増えています。これまでも不景気になると医療福祉は削減されてきました。その費用で、在宅で障害者、介護被保険者を含む皆様が安心した暮らしができるよう支援を厚くするのであれば理屈は合うのですがどうでしょう。

私は、美杉を走る今の名松線を目にするととても悲しくなります。自然の多い地域には自然と共存するために農業などで安心した生計が成り立つように国の投資が必要です。そうすれば地域の銀行が活性化し、若者の定着が見込まれ、健全な生活で健康も増進でき医療費が抑制できる想像も難しくはありません。

病気により、医療費の不安、生活の不安、仕事の不安、今後の介護の不安がおこります。みなさんは、すべて自分の責任と感じられ、おひとりで悩まれていませんか。実は、不安や悩みは、社会問題の中に起因していることが多いです。病気と戦いながらこの社会の中で懸命に生活されている皆さんが、もう少し生活しやすくなるように調整できれば、少しでもお役に立てればと、人間味を忘れずに相談に応じたいと思っています。どうぞお気軽にご相談ください。



医療相談室

緩和ケア外来 開設に向けて

皆さんは“緩和ケア”という言葉をご存じですか？緩和ケアはがんに限らず生命を脅かす重い病気を抱える患者さんやそのご家族の、体や心などの様々なつらさを和らげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていく治療（ケア）のことです。主にはがん診療の臨床の場で展開されることが多いのが現状です。

当院は三重県の地域がん診療連携拠点病院のひとつに指定されており年間1000名以上のがん患者さんの治療に当たっております。

がんと診断され告知された患者さんにとっては、最初はとても現実を受け止められずに否認、絶望の時期を経験されますが、その後は次第に前向きにがんの治療を受ける覚悟へと変化されていきます。実際がんと診断されたときに体の痛みを感じておられる患者さんは2割程度おられ、さらに痛み以外の様々なつらさを感じておられます。今後つらい検査が必要なのか、がんの治療（手術、抗癌剤、放射線治療など）はどのように行なわれるのか、体への影響はどうかといった治療に伴う身体的な不安、もう治らないのではないのか、今後どうなるのかといった精神的な不安、医療費はどれくらいかかるのか、仕事はどうすればいいのかななどの社会的な不安、家族への負担の気かり、自分自身の生存の意味など様々な苦痛と直面することとなります。

体や心のつらさのこと、生活や医療費、仕事面のこと、食事のこと、薬の副作用などのことなど様々なつらさや痛みが続くときにはぜひ『緩和ケアチーム』にご相談ください。当院では、医師、看護師、薬剤師、栄養士、心理療法士、医療相談員などで構成された緩和ケアチームがあります。先ほども述べましたようにがんと診断された早期から様々なつらさが出現します。緩和ケアは決して終末期のみの治療ではありません。様々な苦痛、悩みが出現したその時点から緩和ケアは提供されるものです。

緩和ケア外来はがん治療を受けられる患者さんに対して病気だけを扱うのではなく、その方の人



外科医長 谷川 寛自

生観、生き方を理解して関係性を築き、病状の理解やがん治療に関する意思決定、生活支援を行い様々な視点から関わることでがん治療が有効に行われて行くことを支援する外来です。患者さんの治療に直接関わる主治医をはじめとする医療者（プライマリーチームと言います）のもとに患者さんががん治療がスムーズに行えるように支援していきます。残念ながら治癒が望めない（病気が治る見込みがない）ご病状の場合は今後の生活や療養の希望、終末期に対する考え、家族への支援なども検討が必要となる場合も想定されます。今や生涯日本人の二人に一人ががんに罹患（かかる）する時代で生活習慣病と言っても過言ではありません。がんは決して人ごとではありません。よりよいがん治療がなされその人らしくよりよい人生を送れるよう支援させていただきたいと考えております。緩和ケア外来は定期的に行う外来ですので、苦痛が生じたときにはいつでも遠慮せず主治医にご相談頂き外来受診していただきたいと思っております。

来年1月開設を目指し準備を進めております。ご相談・お問い合わせは、地域医療連携室・がん相談室まで！

“緩和ケア”という言葉をご存じですか？

輝くメディカルスタッフたち

医師、看護師以外でも、多くの専門性を持ったスタッフが当院院内で活動しています。その人と仕事にスポットを当てて紹介します。

臨床検査科 羽根 頼子



皆さん、こんにちは！紅葉の綺麗な時期ですね！もみじ狩りには行かれましたか？

臨床検査科では中央採血室の管理と採血業務も行っております。

採血について少しお話します。採血では見えている血管ではなく指先で触れる（弾力のある）血管を探します。血管の走り方や深さ・浮き沈みも見ます。針を持つ逆の手で適度に血管を伸ばして固定します。針で刺そうとすると血管は逃げる人が多い為です。決め手の感覚は実務経験（慣れ）とセンスです。どうしても恥ずかしがり屋さんの血管の場合は事前にホットパックします。ホットパックは採血室入口に用意しております。

採血時に痛みを感じるのは針先が皮膚に接触してから皮膚の下に滑り込むまでの間です。この時間を短くすることが苦痛を軽減するのに有効だと言われています。そして、患者様と呼吸を合わせることも大事な手技のひとつです。血管だけを見ているのでは患者様の様子の変化にすぐに気付けないからです。とは言っても、患者様が採血を苦手か平気かは外見ではわかりにくいことがあります。たいてい皆さん我慢してくださっているからです。

針が苦手な方は、なるべくお話をしましょう。

検査の事でも良いですし、趣味のお話や好きな食べ物のお話をしている間に採血が終われば普段より少し気が楽になると思います。

血を見るのが苦手な方は、まったく視線をそらせていただくか、ベッドでの採血をお勧めします。スタッフはスピーディーに心を掛け採血をします。

失敗された経験や採血に辛い思いのある方は、ご希望があれば教えてください。男性スタッフが安心できる・女性スタッフが安心できる・優しい方・詳しく説明してくれる方・慣れた方など。なるべく患者様の不安を取り除く努力をします。ぜひ、遠慮なく気軽に声をかけて下さい。

私たち採血スタッフは、針を持つ時は、一回ずつ緊張を高めています。手技に慣れは必要ですが、気持ちの面での慣れは禁物です。こうして日々頑張っていると、患者様から「全然痛くなかったわ！いつの間に刺したの？こんなこと初めてやわ！」という喜びの声をプレゼントして頂くこともあり嬉しく思います。これからも日々、スタッフ一同努力してまいります。

シリーズ 医療用語の 基礎知識 6

病院職員が何気なく使用している用語で、普通にはあまり馴染みがない医療用語を分かりやすく解説します。

職種の略語

病院ではいろいろな資格を持った人が働いていますが、今回はDr（ドクター：doctor：医師）やNs（ナース：nurse：看護師）に代表される、病院内で使われている職種の略語について紹介させていただきます。



まずはリハビリ部門から。PT（ピーティー：Physical Therapist）＝理学療法士です。座る、立つなどの基本動作ができるように身体の基本的な機能回復をサポートする仕事をしています。但し、ptは患者（patient）を意味することもありますのでご注意ください。次にOT（オーティー：Occupational Therapist）＝作業療法士です。指を動かす、食事をするなど日常生活を送る上で必要な機能回復をサポートしています。最後にST（エステー：Speech-Language-Hearing Therapist）＝言語聴覚士です。話す、聴く、などのコミュニケーションや、食べる（嚥下）に問題のある方の訓練をサポートしています。

ME（エムイー：Medical Engineer）＝臨床工学技士という言葉は聞いたことはありますか。CE（Clinical Engineer）と呼ぶ病院もありますが、人工呼吸器などの生命維持管理装置の操作、保守点検を主に行う仕事をしています。

医療相談部門からは、MSW（エムエスタブリュー：Medical Social Worker）＝医療ソーシャルワーカーです。皆様の経済的、心理的、社会的悩みの解決をお手伝いしています。PSW（ピーエスタブリュー：Psychiatric Social Worker）という、主に精神面の相談を担当する職種を置いている病院もあります。

トリはMA（エムエー：Medical Assistant）＝医師事務作業補助者です。最近増えてきた職種であり、医師が行う診断書作成などの事務作業を補助するスタッフです。

他にもいろいろとありますが、今回は当院で主に使われているモノを紹介しました！

No.6
(医事 伊藤啓之)

ミエチュウオウ 文化祭

病気を知り 予防し 生活するための



循環器科 新谷 卓也

去る11月1日に、第1回 ミエチュウオウ文化祭が開催されました。

病院の敷居を低くし、地域住民のみなさんと医療者との触れ合いの機会を作ることで、「気軽に訪れることのできる病院」、「顔が見える医療」を拡充させてゆきたい。そんな思いが発端でした。

市民公開講座を軸として、各種催し物と融合させた当院初の文化祭、開始から終了まで来場者が途絶えることなく、大盛況となりました。

地域医療研修センターでは、公開講座「動悸、ほっといちゃダメですよ!」「足のむくみの気になる方へ」「あなたは1km歩けますか?」の3演題。

健康と食文化の融合という観点から、カロリーオフでもおいしい食事(Cafe Sanche)安心して吞めるカフェインレスコーヒー(スターバックス)の提供もありました。

1Fエントランスホールでは、メインステージを設営し、よさこい3チームによるダイナミックな演舞、当院心肺蘇生チームと津市消防救急救命士との合同企画 心肺蘇生法の実演講習、和太鼓 服部博之氏、尺八・二胡 新田

みかん氏による迫力のパフォーマンスで盛り上がりました。

ステージを取り囲むように、久居げんき会の皆さんによる、地産の野菜やお米、加工品、雑貨、アート作品の数々、各種飲食も充実、猪の倉温泉による足湯の提供などもあわせて計38店舗が軒を連ね、まさに津市久居地区の文化がここに集結。お祭りムードをぐっと盛り上げてくれました。2Fキッズスペースではお子様向け企画、雑貨、ワークショップなど盛りだくさん、元気なお子様の歓声が最後まで響いていました。

来場いただいた皆さんにお喜びいただけたことに加え、当院の多職種にわたるボランティアスタッフ同士でコミュニケーションがとれたこともまた、大きな一歩だったと思っています。



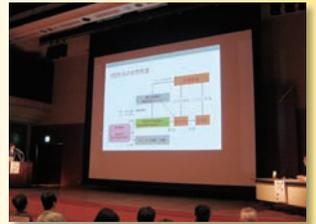
がんに関する市民公開講座を開催



9月27日（土）、アスト津4階、アストホールにてがんに関する市民公開講座を開催しました。テーマは「生活習慣と肝臓がん」。まず三重中央医療センターで開かれている「肝臓病教室」について藤井看護師が紹介した後、

3つの講演とパネルディスカッションがありました。1つ目は肝臓・消化器科医長の竹内医師から「肝臓がんにならないために」と題して、肝炎、肝硬変に加え、男性、高齢、アルコール多飲、肥満、糖尿病が肝臓がんの危険因子である等の話がありました。次に「肝臓がん、どうやって治療するの?」との題で、がん診療部長の横井医師より、肝臓がんの特徴とその各治療法について詳しく解説がありました。3つ目「肝臓にやさしい食事」は栄養室長の山田管理栄養士より、肝臓病を予防する食生活や肝臓がんを予防する食品の話を中心に、肝臓にやさしいメニューの紹介もありました。最後は演者がパネリストとなり、外科医長の谷川医師による司会で、パネルディスカッション。事前に受け付けた質問に加え、会場からも挙手頂き、みなさんの切実な質問に可能な限り回答させて頂きました。

219名と多くの方に参加頂きありがとうございました。アンケートで「すごくよく分かりました。またこういったものを開いてほしいです。」とのお声も頂き、今後も皆様のご期待に出来るだけ応えられる講演会を企画していきます。



出前！市民公開講座報告

出前！市民公開講座も皆様に支えられ、月4～5回出張させて頂いております。

9月の三重中央だよりでのご報告以降もたくさんの方に聞いていただきました。

10月末で第25回を数えることとなりました。

9月には初めて、上野内科 上野利通先生の診療施設をお借りして、出前講座を行う機会をいただきました。地域の先生方にご興味を持っていただけたことは嬉しい限りです。

また、車検等でお馴染みの三重県自動車会議所様からもご依頼を頂き、「シリーズ「呼吸器」～

風邪・インフルエンザから肺炎・結核まで～」のテーマで呼吸器科 藤本医師のお話をさせていただきました。車という密室の中での感染予防！今日から気を付けよう～と再認識していただきました。

毎月恒例となりましたサンバレーでの講演は今後も予定が盛りたくさんです。

随時、ご報告させていただきます。



今後の出前！市民公開講座予定



多くの皆様のご参加をお待ちしております。

11月26日(水) イオン津南ショッピングセンター サンバレー1F サンバレーホール (15時～16時)

簡単にできるリラクゼーション —体験！漸進的筋弛緩法—

講演：臨床心理士 増井 理恵

12月18日(木) イオン津南ショッピングセンター サンバレー1F サンバレーホール (15時～16時)

脳動脈瘤とくも膜下出血 —画像が解きあかす破裂メカニズム—

講演：脳神経外科 石田 藤麿

1月24日(土) イオン津南ショッピングセンターサンバレー1Fサンバレーホール **14時～15時**

あなたの行動で家族を救おう **AED や人形を使って蘇生術を実践できます。**

—誰かが倒れたら、取るべき行動—

講演・実演：ACLSチーム

「クローバー友の会」 会員募集

「クローバー友の会」は地域の皆様と病院が、様々な病
気・医療の学習を通して理解を深め合う会として発足し
ました。賛同いただける方はぜひ会員登録をお願いいた
します。登録は無料です。会員には当院から健康に関す
る様々な情報をお届けします。受付でお声かけください。
登録と同時に会員証をお渡しいたします。

記入いただいた個人情報は本会の業務以外には使用せ
ず、安全かつ適切に管理いたします。

三重中央医療センター 地域医療連携室

独立行政機構
三重中央医療センター
クローバー友の会事務局

〒514-1101 三重県津市久居明神町2158-5
TEL. 059-259-1211 内
地域医療連携室

独立行政機構
三重中央医療センター クローバー友の会

会員にご登録いただきありがとうございます。
講演会に参加いただくことに1スタンプ押印いたします。
(スタンプ数による特典は別途公表いたします。
特典は変わることがあります。)

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

■会員氏名 _____
住所 _____
氏名 _____
電話 _____

編集 後記

本号では「地域に生きる、三重中央／地域医療支援病院」をテーマとさせていただきます。当院は、平成22年8月に三重県より地域医療支援病院として承認されておりますが、その役割を踏まえ、開業医等の皆様との紹介・逆紹介などの連携を強化するとともに、大型医療機器等の共同利用を推進し、二次救急について中心的な役割を果たし、併せて、市民公開講座（出前講座）など地域における研修や情報発信に努めていきたいと思っております。今後も三重中央医療センターは、地域医療連携室を窓口として、この地域の中で、他の病院や福祉・介護関係施設の皆様とも密接に連携しながら、患者様中心のより良い医療の提供、ひいては地域完結型医療・地域包括支援システムの構築にも寄与して参りますので、ご支援とご協力をお願い申し上げます。（下）

発行所

三重中央医療センター
院長 森 本 保

三重県津市久居明神町2158番地5
TEL. 059-259-1211
<http://www.hosp.go.jp/~nmch>

●●● 三重中央医療センター連携医療機関紹介 ●●●●●●●●

寺田 医 院

ホームページアドレス：<http://teradaiin.jp>



当院は津市西部の神戸、野田地区に位置しています。初代の寺田久治が神戸の旧家を改造し開業し、二代目の寺田誠が現在の場所に移転しました。当時は診療所前の県道は一車線の狭い道でしたが、現在は中勢バイパスが近くを通り、大変交通量の多い道になりました。平成23年より寺田衛が院長となり、現在に至っております。

当院は気軽に相談できるかかりつけ医として地域の皆様の健康のためにお役に立てればと考えています。

禁煙外来もその一つで、タバコを吸いたい気持ちをどう紛らわすのかスタッフ皆で考えて患者さんをサポートしています。また在宅医療についても可能な限り対応し、自宅ですごしたいという患者さんの気持ちや、それを支えるご家族の気持ちに応えたいと考えています。

三重中央医療センターには大変お世話になっており、担当医の先生からいつも丁寧なご報告をいただき感謝しております。また、三重医療安心ネットワークの活用し、病院での診療情報を共有することで円滑な診療ができるようになっていきます。今後も更に連携を深め、患者さんにとって「つかいやすい、満足度の高い医療」を提供したいと考えています。今後ともよろしく願いいたします。

院 長：	寺田 衛
住 所：	津市野田778-1
電 話：	059-237-3378
診療科目：	内科・胃腸内科
診療時間：	9：00-12：00 15：00-18：30
休 診 日：	木曜午後、日曜、祝日

ながたレディースクリニック



平成16年6月9日にイオンタウン津城山の北隣に開院し10年を迎え、平成25年5月には医療法人となりました。日頃より三重中央医療センターとも連携させて頂いています。

院長は、産婦人科専門医であり母体保護法指定医です。当院は、お母さま方の希望に出来るだけお応えし、生涯最高の喜びを迎えて頂けるようアクティブバスを取り入れております。

ゆったりと落ち着いた気分になれるやすらぎの環境の中で、安心して安全なお産を迎えて頂きます。

これからも院長、スタッフ一丸となって良質な医療を目指し、みなさまに信頼される産婦人科を目指し、地域医療に貢献してまいります。

院 長：	永田 光英
診療科目：	産婦人科
住 所：	〒514-0815 三重県津市藤方150
電 話：	059-238-5678

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9：00～12：30	○	○	○	×	○	○	×
16：00～18：30	○	○	○	×	○	○	×

基本、予約制ですのでお電話にてご予約ください。
(診療時間内にお願ひします) 休診日：木・日・祝日

内科MYクリニック



内科MY（まい）クリニックは、三重中央医療センターから北西へ約3kmの、片田団地に2005年12月に開業し、まもなく満9年になります。

主たる診療科目は内科一般でして、高血圧・糖尿病・脂質異常症・消化器疾患・心臓疾患・甲状腺疾患・呼吸器疾患・腎尿路疾患に加え、認知症や骨そしょう症などの後期高齢疾患の診療に努めております。

開業前までは永年にわたって消化器・肝臓病学、免疫学、および漢方医学を専門分野として大学での臨床研究

に携わってきたこともあり、ウイルス性肝炎や免疫性疾患に対しては、専門性の高い診療を維持できるように心がけております。また、食道・胃・十二指腸疾患の早期病変の発見をめざした経鼻内視鏡検査や、漢方薬を用いた治療も積極的に実施しております。

その一方で、診断や治療方針決定に苦慮する場合には、緊急時も含めて三重中央医療センターにお願いし、早く、最先端技術を駆使した診療を賜っております。

これからも三重中央医療センターとの連携を深めて、地域の家庭医として努めていきたいと考えております。

院長：山鋪 昌由
住所：〒514-0083 津市片田新町21-1
電話：059-237-2000
主な診療科目：内科、消化器科
休診日：日曜日の午後と月曜日の午前・午後（ご注意ください）
診療時間：午前は9時～12時まで（木曜日は11時まで）
午後15時～18時半まで
（ただし木曜日は16時半～、土曜日は17時まで）
☆日曜日は午前の診療のみです
なお、木曜日は時間変更の場合があり電話で御確認下さい

たかはし内科



医療が高度化する中、人にやさしい解り易い医療を展開したいと思っています。

つまり、身近に相談が出来る「かかりつけ医」であろうということです。皆様にはぜひこの「かかりつけ医」を持つことをお勧めします。少しゆったり

と、皆さんの気持ちに沿いながら、且つ効率よい診療が出来るでしょう。

しかし、高度な医療設備・専門性・幅広い診療科の手助け、あるいはチーム医療が必要になる場合があります。その際は、総合病院へ皆さんをご案内することになります。その時のため、三重中央医療センターの先生方と近隣開業医は病診連携（病院と診療所の連携）を大事にし勉強会もしています。我々は、新しく先進的な医療を指導していただきながら、幅広い臨床経験を伝える役目をしています。このようにして、皆さんのために、“必要な時に必要な医療を提供する”よう務めています。

よろしく申し上げます。



外来診療担当表

平成26年11月1日現在

診療科名等		月	火	水	木	金	
初診内科 (初診・予約外) <small>*初診及び紹介患者様は、総合内科で診察いたします。</small>	1診	井端 英憲【呼】	大本 恭裕【呼】	北村 政美【循】	田中 剛史【糖】	川崎 敦【循】	
	2診	竹内 圭介【消】	中久木 哲也【循】	藤本 源【呼】	田中 淳子【循】	後藤 浩之【糖】	
	3診	新谷 卓也【循】	子日 克宣【消】	十時 利明【消】	渡邊 典子【消】	亀井 昭【消】	
	4診	中谷 仁【循】	奥田 昌也【糖】	田口 由紀子【消】	岡野 智仁【呼】	西井 洋一【呼】	
	10診		吉川 京子【消】				
再診内科 (予約のみ)	呼吸器科	5診			井端 英憲(午後再診)		
	循環器科	5診	田中 淳子	川崎 敦	新谷 宇一郎	中久木 哲也(午前再診)	
	呼吸器科	6診	藤本 源	井端 英憲	井端 英憲	大本 恭裕	大本 恭裕
	消化器科	7診	子日 克宣	亀井 昭	渡邊 典子	十時 利明	竹内 圭介
	内科	8診	中久木 哲也【循】	新谷 卓也【循】	後藤 浩之【糖】	田口 由紀子【消】	中谷 仁【循】
		9診	後藤 浩之【糖】	田中 剛史【糖】	田中 剛史【糖】	田中(崇)【糖】	田中 剛史【糖】
		10診			西井 洋一【呼】	奥田 昌也【糖】	岡野 智仁【呼】
整形1診		加藤 裕也【消】					
神経内科	1診	北川 長生	梶川 博之(予約のみ)	北川 長生	梶川 博之	北川 長生(予約のみ)	
	2診	吉丸 公子	北川 長生(予約のみ)	梶川 博之	北川 長生	吉丸 公子	
小児科	午前	1診	井戸 正流	井戸 正流	田中 滋己	田中 滋己	
		2診	*NICUフォロー	*NICUフォロー	発達外来	*NICUフォロー	
		3診		田中 滋己	山本 初実(予約)	井戸 正流	
		4診	発達外来			発達外来	
	午後	1診	田中 滋己(予約)	乳児健診			予防接種
		2診	*NICUフォロー	2週間・1ヶ月健診	発達外来	*NICUフォロー	
3診	NICUフォロー		山本 初実(予約)	NICUフォロー	(NICUフォロー)		
外科	1診	横井 一	谷川 寛自	横井 一	信岡 祐	谷川 寛自	
	2診	草深 智樹		武内 泰司郎			
整形外科 (予約・紹介のみ)	1診	田中 雅		田中 雅		浅沼 由美子	
	2診	長倉 剛		小寺 秀樹		長倉 剛	
	3診	新谷 健		新谷 健		小寺 秀樹	
脳神経外科	1診	霜坂 辰一	石田 藤麿	霜坂 辰一	種村 浩	石田 藤麿	
	2診		種村 浩(初診)		芝 真人	霜坂 辰一(予約のみ)	
脊椎・脊髄外科		*水野 正喜 *診療時間は10:00~14:00までとなります。					
呼吸器外科		安達 勝利					
心臓血管外科		森本 保					
皮膚科(*予約・紹介のみ)		中西 朝子					
泌尿器科 <small>*水曜日の初診及び再来初診の受付時間は8:30~10:00までとなります。</small>	1診	加藤 雅史		*加藤 雅史(初診)	加藤 雅史	加藤 雅史(初診)	
	2診	岩本 陽一(初診)		岩本 陽一	岩本 陽一(初診)	岩本 陽一	
産科・婦人科	午前	1診(初診)	前川 有香	日下 秀人	前田 眞	吉村 公一	澤木 泰仁
		2診(婦人科再診)	前田 眞	前田 佳紀	吉村 公一	前田 佳紀	日下 秀人
		3診(産科再診)	武田 真由子	道端 肇	前川 有香	武田 真由子	道端 肇
		4診(助産師外来)	毎日、完全予約制(担当は交代制)				
	午後	1診(産科再診)	前川 有香	日下 秀人	前川 有香	前田 佳紀	澤木 泰仁
		2診(婦人科再診)	澤木 泰仁	前田 佳紀	吉村 公一	吉村 公一	日下 秀人
3診	*助産師外来	産後一ヶ月健診	*助産師外来	*助産師外来	*助産師外来		
眼科(予約・紹介のみ) <small>*水曜日の受付時間は8:30~10:30までとなります。</small>		久瀬 真奈美					
耳鼻咽喉科	午前(初診)	*伊藤 由紀子					
	午前(予約のみ)	伊藤 由紀子					
	午後(予約のみ)	伊藤 由紀子	中耳外来		中耳外来		
放射線科(7ブロック)		奥田 康之					
リハビリテーション科		小寺 秀樹					
歯科・歯科口腔外科		柳瀬 成章					
看護外来(予約)		看護外来 (第1月曜日 透析予防外来)	看護外来 (第3火曜日 透析予防外来)	糖尿病外来	ストーマ外来	フットケア外来	

*初診及び予約のない再診の方の受付時間は8:30~11:00までです。 *医師の人事異動・出張等により臨時に代診(休診)となる場合があります。
*当院のような急性期病院は、病棟入院患者様の処置、手術、検査、回診等があり、外来診療に制限を設けなければならない診療科もあることを御理解ください。

不整脈専門外来	肝炎外来	いびき・無呼吸検査	タバコ障害・COPD精査	ものわずれ外来	乳児健診	予防接種	NICUフォロー
月・火曜日 午前診療	月曜日 午前診療	月・火曜日 午前診療	月・火・水・木・金 午前診療	月・金曜日	火曜日 午後診療	金曜日 午後診療	月・火・木曜日 午前診療
循環器科(新谷)	消化器科(竹内)	呼吸器科	呼吸器科	神経内科(吉丸)	小児科		小児科(益野)
未破裂脳動脈瘤 専門外来	脊椎・脊髄外科専門	肺癌・良性肺腫瘍・ 気胸・縦隔腫瘍・膿胸	中耳外来 (予約)	プレママ外来	おっぱい外来 (予約)	発達外来	
金曜日 午後診療(要予約)	火曜日(10時~14時) (要予約・紹介)	火・木・金 午前診療	火・木曜日 午後診療	火・木・金曜日 午前診療	月・火・木曜日 午後診療	月・水・木曜日 診療	
脳神経外科(石田)	脊椎・脊髄外科(水野)	呼吸器外科	耳鼻咽喉科(伊藤)	産科・婦人科		小児科(山川)	